

令和4年度実施分 協働事業・市民活動助成事業プレゼンテーション

【日 時】令和3年11月14日（日）9：15～16：35

【場 所】議会棟3階特別委員会室

【出席者】犬塚 裕雅会長、杉浦 利彦副会長、上野 真一委員、小川 早苗委員、
坂野 喜隆委員、牧野 昌子委員、佐藤 秀樹委員
(欠席) 神谷 明宏委員、齊藤 典子委員

【傍聴者】 3名

- 1 開会
- 2 協働のまちづくり協議会委員紹介
- 3 協働のまちづくり協議会 会長挨拶
- 4 令和3年度実施分協働事業・市民活動助成事業プレゼンテーション

(1)

事業名：ときわだいらオープンアトリエ事業

団体名：特定非営利活動法人ディーパデモクラシー・センター

委 員：今までオープンアトリエをやってきた実績はありますか。もしやってきたのであれば、今回の提案ではどういうところに焦点を置いてやっていますか。また、今回の提案が通った後、他の地域でどういう展開をしていくのでしょうか。

団 体：団体としてオープンアトリエは開催していません。ただし、子ども達の解決能力を高めたいという目的で、表現の場やものづくりの場を展開しております。同時に、ケアの場として相談の場を作っていますので、それを一つにして行う、というのが今回の事業目的です。他の地域での展開については、まんべんなく市内ではと思っていません。事業終了後には定期的に事業を進めていきます。

委 員：困窮している人にどのように情報を届けますか。また、予算書を見ると場所代が計上されていないようです。これは自分達が見えるスペースをお持ちなのかどうか、教えてください。

団 体：法人として7年目になりますので、それなりにメディア等を持っています。そこで発信していきます。松戸市内においては、ホームレスの方の支援や、生活再建の部分に関わらせていただいておりますので、そういった方達もサロンに関わっていただければと思っております。場所の件ですが、事務所が八柱から常盤平の駅前のビルに場所が移転になりました。ここは事務所という形ではありますけれども、結構広さがありまして、そこを定期的なオープンアトリエの場所として使うつもりです。

会 長：市民活動助成事業で「松戸市における災害支援の文化を創造する事業」をやっておられたと認識しています。それはやめてこちらの新しい事業を行うの

は、どういう理由があるのか。また、「災害支援の文化を創造する事業」については課題があったと報告を受けています。その課題に対してさらに深掘りするという、そういう取り組み姿勢は無いのでしょうか。

団体：一昨年前に市民活動助成で「災害支援の文化を創造する事業」を実施しました。結果としてできない部分があり、今までのやり方では、追及できないと思っております。法人が関わっている中で、地域の災害支援ネットワークが確立できておりますので、この事業とは別で実施したいと思っております。災害時に我々が千葉県南部で見た市民の参加・協力の力というのは、災害を体験しないと発動しないものなのかなと思うところもあり、平時における人々のつながりやセーフティネットを強めるということについて、注力していく事になりました。

会長：助成を受けていた「災害支援の文化を創造する事業」は、皆さんの法人としてきちんと向きあっているという、そういう理解でよろしいでしょうか。

団体：次なる災害に向けて備える形で活動しております。

委員：この事業については生活困窮の方も含めて、色々な課題をお持ちの方々が取り組んでいくという事でよろしいですか。対象者をお伺いします。

団体：誰でも、という事で考えています。

(2)

事業名：みんなで育て、みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業

団体名：エディブルウェイプロジェクトチーム

委員：マンションの住民の方へのアプローチは、スケジュールで示された以外の活動として読み取っていいですか。また、具体的なアプローチ方法を教えてください。

団体：マンションの人はお断りしていたという状況がありましたが、サポーター会員という形で呼びかけて、良い関係、仕組みができるのではないかと思います、今回ステップアップに応募しました。

委員：皆さんは千葉大の大学院生ですか。

団体：私はかつて大学院生でした。卒業して今は市民です。

委員：この活動は学内での授業とか研究に値するような活動ですか。また、マンションの住民がサポーター会員ということで、例えばベランダでプランターを見せるような事も考えていますか。最後に、実施地域を将来広げていくような考えはお持ちでしょうか。

団体：2016年に研究室の研究テーマ・研究活動として事業を始めましたが、地域の方達と関係もできて、自分も続けたいという意思があったのでコアメンバーに声掛けして、この2年は大学と離れてやっています。大学生たちもワーク

ショップのメンバー等でお手伝いに来てもらっています。次に、ベランダサポーター会員について、直接見えないという事があるので、SNSでの発信をお願いしたいと考えています。3つ目について、来年度、冊子等をまとめたと考えています。これまでの活動と来年度の活動を併せて、作り方や仕組みを載せる形で、簡単なガイドのようなものを作りたいと考えています。

委員：プランターについて、今回110個+40個創設ってということで伺っています。これはフェルト生地という事ですけども、どのぐらいもつものですか。

団体：商品の耐久年数としては2~3年という風に書かれています。今5年目ですが、何の問題もなく使えています。

(3)

事業名：「食」と「コミュニケーション」によるつながりづくり事業

団体名：生きづらわーほりプロジェクト

委員：ひきこもり状態の方へのアプローチの仕方を教えてください。予算書にはチラシ300部となっていますが、配布先等を教えてください。

団体：市の中のひきこもりの関連団体とのつながりづくりは並行的にやっています。ひきこもり応援ネットまつどという、色々な支援団体が集まるところですとか、自立相談サポートの方とずっと連絡を取り合っています。あとは家族会です。親御さんが集まる会が市内にありますので。あとは地域包括支援センターとのつながりも作って、情報を伝える窓口にしたいと思っています。

委員：「つたわりミニ」などの形で、当事者の方々と講座をやられていると思いますが、当事者の方々はどのような感想をお持ちでしょうか。また、ひきこもりなど解決していくために、どんなアプローチを進めると課題が解決していくか、そのあたりをお伺いしたいのですが。

団体：私は元当事者で、中学校の頃から不登校になり、ひきこもりになりました。「つたわりミニ」のような当事者が集まれる場所は本当に少ないです。こういう場を作っていただけるという事が、私たち当事者としては嬉しく思っています。また、健康というキーワードを今回入れています。食と健康、身体の面から元気になる事、そういった狙いを持っています。

委員：地域の市民団体・NPOとのつながりを作るという事ですが、すでに何かされているのであれば具体的な方法等と、今後の展望を教えてください。

団体：今回の企画の堆肥づくり・ハーブ栽培は、まつどSDGsノウエンという団体と関わって行います。人と接する機会を、農業を通じて作りたいと思っていますが、前段階として自分が作った堆肥やハーブを使って、自分が社会につながっているなという事を感じてもらいたい、そんな仕組みを作りたいと考え

ています。

委員：今回は3回つたわりをやるということで、タイムスケジュールとか時間を教えてください。

団体：今のところランチ作りを予定しています。11時前位に集まって、買い出しに行ってお作り、食事して片づけて5時間くらいの予定です。

(4)

事業名：親子で安心、子ども達が楽しく育つ居場所づくり事業

団体名：なないろのもり

委員：予算について、今後も続けていかれるという観点では、サポーターの年間登録料はとても大事なかなと思っているのですが、企業様でこの8団体というのは、既に登録いただいている方々でしょうか。

団体：以前から協力していただいている企業様や、他の方々からも徐々に協賛者が増えました。年間のチラシを作り、そこにインスタやホームページのリンクを貼る事で、たくさんの方に周知をしていただけるので、更に人が来るように、少しずつ幅を広げているところです。

委員：宣伝広告料みたいな形ですね。

団体：はい。

委員：子ども達の反応はいかがですか。感想でもいいですし、行動変容など、団体として気づいた点があれば教えてください。

団体：保護者の方からは「こんな充実したイベント久しぶりです」というお声をいただきました。オンラインの時は、コロナ禍で行く場所が本当に無くて、家で缶詰状態になって子どもを一人でママが見なくちゃいけない中で、こういうのがあったことがお家の中で楽しめましたというお声をいただきました。

委員：この活動の中で一番大変だと思う部分と、喜びの部分があればお聞かせください。

団体：長く活動させていただいているので、私たち自身も子ども達が成長して、家族の時間とか環境が変わってきているので、最初にスタートした時とはずいぶん形を変えて、模索しながら大変だなと思いながらやっている部分もあります。実際にイベント開催して、子ども達と会うと、やっぱりやってよかったという事の積み重ねで、事業をできています。

委員：子ども達や親子にとっての第3の居場所づくりが、事業概要や目標に掲げられていますが、近隣の小学校へアプローチはどのような方法で行いますか。

団体：幼稚園・保育園・小学校含めて15校以上で、全員配布という形でチラシを配っていただいているので、今後もチラシを配ることで広がっていきます。また

口コミの効果が大きく、1人の方が来ると口コミで伝わって、PRにつながっていくという形があります。SNS等も上手く活用していますし、協賛者の方が発信していただいたりもしています。

(5)

事業名：冒険山開放に伴う見守り事業

団体名：冒険山開放委員会

委員：セミナーについて、対象は誰でしょうか。

団体：子育てに一番忙しい、働き盛りの親達にターゲットを絞って進めています。

委員：お父さんお母さんというところですね。特に専門家向けとかではなく。

団体：はい。

委員：セミナーについて、今までの活動というのは冒険山を使って子ども達が身体を使って外で元気に遊ぶ、それがメインだったと思います。セミナーと今までの活動との関連は何でしょうか。これも冒険山の活動として重要な部分であるとの考えがあるのか、もう少し詳しく教えてください。

団体：遊びというのは、子どもの成長に非常に深い関わりを持っているという事で、3年前に「子どもと遊び」というテーマで講演会を実施しました。我々は子ども達だけにポイントで当てているわけではなく、地域の大人たちも含めて、子どもを見守っていく事を推進します。予定していた活動です。

委員：事業目標に、イベントの参加者20名以上と書いてありますが、普段の冒険山への参加者は平均何人いますか。

団体：コロナ禍の中で極端に減りまして、先週は親子1名ずつでした。そういう状況が最近続いています。親もこういう状況の中で、外に遊びに行くなという話もあり、子ども達が外に向かって遊びに出ない、それは非常に大きな問題として抱えております。冒険山の普段の認知を上げていくよう、イベントや地道な広報活動で対応していこうと思っております。

委員：冒険山の遊具施設というのは普段は学校がある日とかには開放されているのですか。

団体：ターザンロープは修理待ちで使えないのですが、それ以外は全部使えるようになっています。

会長：周りの人たち、学校の先生とか近隣の他の人とか、巻き込み方はどうなっていますか。

団体：学校側との接点は年に1回か2回位、全員で草刈りを学校側と一緒にやりしています。PR動画も校長には見ていただいて了解をいただき、セミナーの件もすでにお話して、参加いただけるという話もあります。

(6)

事業名：《開催 5 周年記念》 総の国童謡作詞作曲コンクールと音楽祭の開催、及び入賞作楽譜集・音楽祭 CD・DVD の作成とインターネット公開事業

団体名：音・音楽フォーラム松戸

委員：取り組もうとする松戸市のテーマについて、松戸の音楽文化の活性化と創造を、ということが書いてあります。実施する童謡の作曲コンクールと松戸の音楽文化の活性化の創造という事に関連について、具体的に教えてください。

団体：一言で申し上げましたら、ご縁です。たまたま松戸市民であり、同じような希望と熱意を持った者が集まり、団体を立ち上げ活動している中で、松戸にこの団体があるって事です。活動が拡大していく事で、松戸の名前が知られます。また、音楽祭への動員が増えれば、松戸への還元になるのではないかと思います。全国的に心の豊かさ、私たちの望むところをアピールして活動を続けていきたいと考えております。

委員：日頃の活動においては、どのように松戸とのつながりを図っているのでしょうか。また今までどのような活動をしていましたか。

団体：他団体とのつながりは薄いので、今回この 5 周年を記念して、そこをなんとか作りたいと企画しております。そこが強い狙いでもあります。

委員：記念事業として松戸を発信するという事はわかりました。今の段階で松戸とのつながり作りとか、アプローチを行っているのでしょうか。

団体：このコンクール事業をアピールしておりますし、音楽祭の案内もしております。昨年は音楽祭の中で、松戸市民が作った童謡を演奏しました。

委員：事業内容のスケジュールについて、4月のコンクール審査員依頼の部分で市内の喫茶店と書いてあります。これがちょっと気になったので、何か意図があるのか教えてください。

団体：何もないです。運営資金が非常に乏しいため、委員会の人々が集まれる時間を調整した時に、たまたま場所が市内の喫茶店という事になっただけで、一応計画としてはそういう形を記載させていただきました。

委員：音楽とか流してもらおうのかなと思ったのですか。

団体：違います。

委員：企画書の中では市内の全部の小中高校への周知と参加の呼びかけとあり、チラシで 2 千枚計上していますが、どんな風に周知・呼びかけをされますか。

団体：松戸市教育委員会から後援をいただいていますので、協力を相談させていただきたいとも思っております。これからの課題です。

(7)

事業名：松戸市ご当地漫画&アニメ制作事業

団体名：超普通スタジオ

委員：松戸を全国に向けて、また市民に向けてPRをしていくという事ですけども、ご自身は松戸の良さや魅力はどこだと感じていますか。

団体：私達はこれまで柏を中心に活動をしていましたが、柏と比べると松戸を良くしたいと思っている方がすごく多いなと思っています。そういう熱い思いっていうのもすごく魅力なんじゃないかなと思っています。

委員：松戸の魅力を地域や外に発信していくそのストーリー作りというのは、どのような形で制作の段階で反映させていくのか、どのような作業工程で進められているのか教えていただければと思います。

団体：制作している脚本家が今まで10年位一緒にやっている者で、その組み立てに関しては任しています。私が考えているところとしては、1話ずつ何かをテーマにしたいと思っています。例えば国際の話だとしますと、国際の方と一緒に、ヒアリングや調査して、こうしたほうがもっと魅力を伝えられるんじゃないかなというところを一緒に探しながら作れたらなと、そう考えています。

委員：松戸は子育てとか、やさしい街って事をアピールしていますので、そんなものを入れるといいなという風に思いました。

団体：子育て関連もアプローチしてみようと思います。

委員：資料の39頁について、松戸は地域交流・愛着という面は低水準であると書いてあります。先ほどの話で松戸というのはすごく熱いと、皆さんやる気はあるという話だったんですけども、そこが矛盾しているような気がしました。その辺りの話は、実際体験されて熱いという風に思われたのか、この数字は間違っているという事で書かれているのか、その辺を教えてください。

団体：個人的に考えているのは、市民活動をされている方は熱いと思いますが、逆にしていない方はクールではないかと思っています。今年一緒に作りたい方を募集し、応募された方たちに、今まで何か活動をされてきましたかと聞いたところ「市民活動って何？」って方がすごく多かったです。ただ、その人達は皆さん「松戸の為にしたい」という事を言っていました。そこから考えると、愛着・思いはあるのだけれども、ぶつけるものが無くて、数字的に低いみたいな感じなのではないかと考えています。

委員：アニメってすごくお金がかかるのではないかというイメージがあるのですが、今回の予算でできるのですか。

団体：可能です。アニメには3パターンありまして、フラッシュアニメ、リミテッドアニメ、フルアニメがある。今思われているのはフルアニメーションだと

思うんですね。それだと何千万とかかかるんですけども、あとの2つは何万とかで作れる。あとは市民でやっているの、報酬が安いというところが大きいです。

(8)

事業名：カンボジアオンライン講演会事業

団体名：特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

委員：オンラインで講演をされるという事で、通訳がいるのかどうか教えてください。また今回動画を作って、どのように広げていきますか。最後に、カンボジアのNGO団体というのは、どんな団体なのか教えてください。

団体：広げ方について、私達はホームページを持っていて、アクセス数はかなり多いです。全国展開はメディアを通じて行います。また動画をきっかけに僕らが直接会って、興味を引き付けます。ダイレクトに熱いコアなファンを作っていく戦略でと考えています。言葉については、僕がどの国の言葉も片言で喋れます。Aki・Raという団体については、日本の英語の教科書に載っている人物でして、全国的にはかなり知名度のある団体です。

委員：込み入った話になってくると思うのですが、そこは向こうの言葉で伝えますか。

団体：Aki・Raは日本語も少し話せます。細かいところは英語・カンボジア語・クメール語が混ざるので、それは僕がテロップを出したりはできます。

委員：チラシを千枚配るとのことでしたが、足りないのではないですか。チラシをどういう形でどこに配っていくのか教えてください。

団体：千枚が妥当だと思って判断しました。僕らに興味を持っている人にちゃんと読んでもらえる千枚を作って、それを選定して配った方が効果はあるのではないかと考えています。

委員：ちゃんと読んでもらえる方にはどのような形で配るのでしょうか。

団体：この2~3年間松戸市内のNPOと、外国人団体等も含めて交流を持ってきたので、そういったつながりで、興味がある団体にダイレクトに配っていく。あとは学校関係ですよね。

会長：市民活動助成事業というのは団体のやりたい思いを後押しする助成金ですが、松戸の地域課題・社会課題、ニーズに対して、団体がどのように取り組むかが大きな要点です。その目線からいったときに、皆さんが今回提案されているこの内容は、松戸の地域課題、社会課題のどれに結びついていくのか教えてください。

団体：NPOとか他の団体の活動を見ると、地元の交流とか、世代間のつながりとかいった形で、ある種短期目的であると思います。アフリカやアジアは今とて

も発展しているので、未来の目を持って、未来の子ども達に返してもらおう。言い方悪いですけども恩を最初にきせて、将来返してもらおうという見込みで松戸の事につながっていくと思います。

(9)

事業名：コミュニケーションの知識を学び、対人関係を円滑にする支援と仲間作りの場事業

団体名：街のコーチング屋さん

委員：学ぶ会というのは3回開催されますが、これは1回完結なんですか。また、コーチングという名前が出ていますが、コーチングの専門家というのはいますか。

団体：学ぶ会は3回1セットにして、毎月1回ずつやっっていこうと思っています。1回目は聞くコツ、傾聴に力を置きます。2回目は承認やフィードバックについて中心にお伝えしていきます。3回目は質問を中心にお伝えしていきます。1回完結ですので、参加したいところだけ参加していただいても結構ですが、3つ続けてやっていただくと、基本的なコーチングスキルを知る事ができます。それからコーチングの専門家はあるのかというところですが、私自身がライフコーチとして活動しておりますので、私の普段の知識を皆さんにお伝えしていきます。

委員：学ぶ会は1回何時間くらい？

団体：1回に2時間位お話しさせていただく予定でいます。

委員：事業内容に「アハ体験」というのがあり、この単語の意味を教えて欲しいです。また、団体で今年もコーチングの講座をやられているようですが、参加された方からどのような声があがっていますか。

団体：学ぶ会ではワークを大事に使っており、ワークの中で気づきが出てきます。その部分を「アハ体験」という表現で使っています。参加者からのコメントについては、高齢のお母さまとの暮らしの中で、会話を苦勞されているという方がいらっしゃいました。聞くコツの講座に出ただきまして、家に帰ってから言われた事をやってみたところ、今まで聞いた事が無いような会話をしてくれるようになりました、というような報告をいただいています。

委員：学びの会で新しい仲間づくりが行われた実績はありますか。

団体：参加いただいた方達がグループを作って何か活動を始めた実績はまだありません。

(10)

事業名：介護予防と居場所づくりをつなぐ広報事業

団体名：松戸プロジェクト パートナー

委員：6回発行していくというご提案ですが、広報活動はまつどプロジェクト全体の事業費として計上されていますか。現状を教えてください。それから、読み手は誰かという辺りを教えてください。

団体：我々の活動は松戸市から予算は出ておりません。松戸市は千葉大の調査事業として予算を組み、千葉大はその一部を私共にまわしている形です。ただ金額がとても少ないです。ニュースレターを出すようなお金にならないという事で、今回も応募しています。対象者は今のところ最低限、元気応援くらぶ70カ所には届けなければいけない、という事が中心になっております。

委員：千葉大が松戸市から事業費を受けて調査研究としてやっている仕組みについて、これは市から二重にお金が行くって事が課題かと思ったもので、ご質問させていただきました。

委員：何で協働事業にしなかったのですか。

団体：色々事業もやりたいですが、それに伴う予算の確保をお願いしなくちゃいけないという事になってきます。もうちょっと大きな展開でやりたいという事がありますが、そこまで踏み込めない実態があります。まつどプロジェクトも今動いている介護予防プラス、地域の足とか手を補っていく、そういった目的でも始まってくるので。これから第3、第4とか色んなまつどプロジェクトの形が出来てくる中で、我々の活動も市民活動として継続性をもって対応していきたいという事は密かに思っております。

(11)

事業名：菜切り包丁砥ぎ方教室事業

団体名：数値調理会

委員：事業名で、「菜切り包丁」を違う風に言ったら、受入れて参加する人がいるのではないかなと思いました。

団体：実行時には訂正します。

委員：仕上げるまでどれぐらい時間を要しますか。また「はまぐり仕上げ」とは何ですか。最後に、包丁使って野菜を切ったりですとか、サラダを作ったりとか、そういうような活動は予定されていないのですか。

団体：仕上げ時間は1本で数10分ぐらいです。「はまぐり仕上げ」については、縄文時代の磨製石器をイメージしていただくと、形が丸いはまぐりの殻が口を合わせたような形なのです。あの形ですと、切れる物との接触面が少ない。最後に包丁をまっすぐじゃなくて、曲げながら仕上げる。そうすると野菜の

切り離しが綺麗。最後にサラダ作りについては会議室だと調理ができないので、試し切りとして大根でかつら剥きするとかを行っています。

委員：経費について、委託料とありますが「安全とぎ台」というのは、レンタルするという事ですか。

団体：製作を委託します。木の台にクランプをくっ付けて包丁が固定できるようにする。木工所で作っています。

委員：宣伝の製作委託というのはなんですか。単価 2,500 円*1 本とありますが。

団体：のぼり。教室始める時に旗を立てたいなど。

委員：支出について、祭り出店単価 3,000 円*2 回とありますが、どういうお祭りへの参加を考えていますか。また通信運搬費のチラシ 120 通はどのような方を対象に考えていますか。

団体：祭りについて、まつど祭りとか、サポートセンターのフェスタとかそんなあたり。それから送り先ですけれども、これは男の料理教室の方々が対象になります。

(12)

事業名：四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業

団体名：小金原みんなでわくわくする会

委員：今回皆様がやろうとしている活動は、いわゆるブレインストーミングでしょうか。

団体：基本的に SWOT 分析のベースを、ブレインストーミングで構築していきたいです。

委員：地区の町会出席率は良好であるという事ですが、この先考えた場合、出席しない方へ、どのようにこういう活動への参加募っていくかは大事だと思います。ノウハウは何かありますか。

団体：片方向ではなく、双方向のコミュニケーションを築いていかないといけないと思っていますが、具体的にどうかというとまだ色々試行錯誤で、これから関係者で相談しながら進めたいと考えております。

委員：地域を創っていくのは若い人達でもあるので、そういった人達の巻き込みを考えているのかどうかをお聞きしたいと思います。

団体：若い人達を巻き込むというのが私どもの事業の本幹になります。例えばバーベキュー大会、運動会等、自分の子どもとかと一緒に楽しみながら、その中で SDG s でいうと環境対策とか、さらに CO2 削減対策とかですね、そのためにはもっと地道で細かいことで何がやれるのだろうといったところを深掘りしてみたいと考えています。

委員：四世代全員参加の地域活動は素晴らしい目標だと思うのですが、実際四世代

の方は地域にはいますか。

団 体：います。上は100歳位のおじいさんおばあさん、私ども世代の親、そういうところから自分自身、で、私どもの子どもがいて、その孫がいますから、そういう意味では四世代いると思います。

委 員：一緒にお暮してことではなく、その地域にいるという意味ですか。

団 体：地域です。必ずしも全員が住んでいる、大家族体制って事ではなくて、町全体で家族構成が色んな形で行われている、住んでいるという事です。

会 長：実施計画の事業内容で、講師として一般社団法人SDGsプラットフォームの水畑さんをお呼びする予定「他」とありますけど、「他」というのは何を考えていますか。

団 体：SDGsの団体については、詳しく分からない事もあります。松戸市でもSDGsについての組織が出来たと聞いていますので、そういったところから伺いながら適切な人材、先生方を紹介していただき、一緒にブレインストーミングの中に入っていただいてやりたいというのが私どもの想いです。

委 員：SDGsの認知度は、今住んでいる地区ではどんな感じですか。

団 体：今現在は、ようやく私共もSDGSで取り組もうというところで、レベルとしてはまだまだこれからというところですよ。

(13)

事業名：梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業

団体名：梨っこ食堂

委 員：活動の実績で2021年1月から9月まで23回子ども食堂を開催しているとありますが、1回につき何人位子どもの参加者がいるのか。また、お弁当の配布時に、衛生用品の配布を実施とありますが、予算書を見ると衛生用品という項目が無かったのですが、どういったものを配っているのかを教えてください。

団 体：最初は10人位の参加でしたけれども、子ども同士の話が広がって行って、最近では平均ですと1回50人位は来ていただいています。用品については、ご寄付いただいて、使い切れない湿布などを配っています。

会 長：事業提案の内容で①～⑧という結構多くの活動量がありますが、これは何人でまわしていますか。

団 体：現在は6名でまわっている状態です。専属では2名がついています。基本は子ども達が主体的にやっているの、最低でも4人でもまわったというのが実績です。

会 長：子ども達を巻き込んでやっているという事ですね。

団 体：そうです。ハロウィンスタンプラリーをした際は、中学生が計画を立ててく

れて、準備はほとんど子ども達がしている状態でした。スタンプラリーの拠点になる所には地域の方が来て頂いて、スタンプの拠点に立っていただいて、じゃんけんゲームしていただいたという事もあります。

会 長：来年度の事業を実施していく体制の方はちゃんと見込みがたっている、そういう理解でよろしいでしょうか。

団 体：はい。

委 員：50人参加ですとずっとやっていくというと、食材は提供等が無ければ大変かなと思っています。また、事業目標の中のお弁当配布とありますが、これは登録制でのお弁当配布ですか。

団 体：その時々によって違いますが、前もってご連絡をいただいた方に関しては、最初にお弁当を確保しています。食材は、まつど子ども食堂の会と、とうかつ草の根フードバンクに登録をしていると共に、同じ子ども食堂の会で連携をしております、そこで提供していただいたりしています。梨っこ食堂の農園というものも実は持っております、そこで作ったものを子ども達が使って作るという事をやっています。

委 員：子ども食堂開催日にお弁当も配布するという事ですね。

団 体：はい。

委 員：事業内容について、定期的なイベントやワークショップを実施というのがありますが、これはどのような目的で行うのでしょうか。

団 体：イベントに関しては、子どもたち主体で例えばハロウィンであればハロウィンイベント、正月であればおせち料理を作るなどを予定しています。また、松戸市ではママの起業も応援しているというところもありまして、そういう修行の場というか、訓練の場も欲しいというお話もいただいております、子ども達もそういう形のものと一緒に経験し、見たりしながら刺激を受けていきたいなと考えております。

(14)

事業名：市民参加型の「まつどオペラ」の充実化事業

団体名：混声合唱団 CORO KOKO

委 員：最終的に公演するオペラは、本格的な舞台を作って、衣装も作ってのオペラになりますか。また、公演自体は2年後になりそうですが、市民の方にアピールするような場は無いのでしょうか。参加しない一般の市民にとってはこの1年間というのは活動が全く目に見えないと思います。

団 体：舞台を作ってやるのが目標です。見せる場は、令和4年度中にはありません。練習に専念します。

委 員：令和5年度の本格的なオペラ目指して、来年こういう事やりますとかさうい

うようなものは行わないのですか。

団 体：今回習う曲についても公演の場がありますので、そこで披露していきたいと思っています。

委 員：参加費について、会員は会費を払っていると思いますが、市民の参加者は参加費がありますか。計上されていませんが。

団 体：合唱団員は月謝で講師に支払っています。一般の市民を募集する際には、金額そのものはまだ決まっていますが、通常の練習はそれぞれの会費で行おうと思っています。

委 員：事業目標に20名程度の募集をしたいと書いてありますが、対象に小中高生がいます。練習時間は、学生だと土曜日・日曜日とか、昼間の時間帯とか限られていると思いますが、どのようにお考えですか。

団 体：通常は夕方6時から練習していますが、小中学生の要望も聞く必要があります。土曜日や日曜日にやるかについては検討していかなくちゃいけないと思っています。

会 長：市民参加型と謳っていますが、合唱団を核として、市民参加の場面というのは何か想定していますか。また、こういった活動では地元ネタを使う事がよくあります。市民参加型として分かりやすいと思いますが、そういった地元ネタを取り扱うという発想はありますか。最後に、そもそも皆さんの取組みは松戸の地域課題、社会課題の何につながっていくのでしょうか。

団 体：松戸の音楽レベルの向上に少しでもつなげたいというのが目標です。2番目の地域ネタとかいうのは、扱うオペラの演目によりますが、考えていません。

会 長：1点目の質問はどうですか。市民参加の場面が合唱団だけですが、他の場面も想定していますか。

団 体：団員になってくれれば一番良いですけども、「団員にはなりたくない」「この演目の場面で参加したい」という人がたくさんいます。これだけやりたいという人を募集しております、これを市民参加と見ています。

(15)

事業名：ぶどうの家 ふれあいコンサート・イベント事業

団体名：特定非営利活動法人 葡萄の家

委 員：この取組みは、障害者の方々と触れ合ってもらって、他の方々にも障害の事について理解していただく事が目的でしょうか。

団 体：そうです。障害者の方と触れ合う機会を持つ方が少なかったりします。同じコンサート会場・同じイベント会場で、気づいたらあの方は障害者だったのっていう位に、フラットな関係性で一緒の空間にいますよっていう、その事

を伝えたくてやっております。

- 委員：事業内容を見ると、松戸だけではなく、柏、流山、市川市の広報にも掲載をお願いするという事が書いてあります。柏、流山、市川の広報に実際載せていただけるのでしょうか。
- 団体：今までの活動では、東葛地区に情報を流していました。今回は松戸市でという事なので、松戸で取り組んでやっていきたいという新たなものになっています。
- 委員：「ふれあいコンサート」を10月17日に開催とありますが、これは開催されたのですか。
- 団体：これは法人事業であるグループホームのチャリティーコンサートとして行いました。100人参加していただいて、資金を獲得しました。
- 委員：その時に、障害の有る人、無い人はどれくらいの比率でしたか。
- 団体：障害が有る方は1割でした。
- 委員：今回予定している「ふれあいコンサート」について、公演時間はどの位の時間を考えておりますか。
- 団体：公演時間はお子さんもいらっしゃるので、1時間から1時間半です。間に休憩を入れて、楽器の紹介とか、チェンバロの紹介とか、演奏者の方に説明していただいたりしています。
- 会長：事業目標について、障害者の方の目標人数はどれくらいを想定されていますか。先ほど1割位が実績だとおっしゃっていましたが、それも踏まえて来年度はどれ位の気持ちで臨まれますか。
- 団体：今までは知り合いの作業所等に声をかけて来て頂いていました。今回は松戸市の特別支援学校等にも声をかけるので、あと1割は延びてくれればいいなと思うのですが、それはちょっと頑張り次第です。目標は2割か3割です。
- 委員：今後の展望について、団体として今後どのような将来像を描いていますか。少し具体的にお話いただければと思います。
- 団体：自閉症の仲間の人達でも音楽が得意な人もいますし、またこれをきっかけに音楽をやりたいという人もいますので、今後もコンサートを開けたらいいなというところまでは目標を持っています。

(16)

事業名：金ケ作歴史散策まっぷプロジェクト事業

団体名：金ケ作歴史同好会

- 委員：マップを作った後、どういう風に活用して、どういう人を対象に使っていくのか。これを活用してどんな事を達成していきたいと思っているのか、その辺りをお話いただければと思います。

- 団 体：色々な話題があがっていて、メンバー以外も地域の関係者や協力者が色々な意見を出してきています。歴史散策ガイドの実施、講演会、Google マップにこの歴史散策マップを共有できるような形で公開したいとも思っています。語り部をしたいという方もいますし、市立博物館に立体俯瞰図を置きたいという方もいますし、御陣屋太鼓を市の指定有形文化財にしたいという人もいますし、様々です。このマップはあくまで初めだと思っています。小中学生にわかるような冊子にまとめて、できれば社会科の教科書で副教材に使っていただけるようなものができればと考えています。
- 委 員：マップに盛り込む資料はすでに全部用意して、あとは盛り込むだけなのか、この先もまだ調べていって、新しい何か歴史が発掘される可能性があるのかどうか、進行状況をお伺いしたいと思います。
- 団 体：作るという課程がすごく大変です。作成作業自体が市民活動の大事な意義だと思っていますので、検討する事はまだまだたくさんあります。各町会の歴史に興味ある方や、古くから住んでらっしゃる方も集まって、意見を述べながらまとめようという事でスタートしているところです。
- 会 長：予算の団体拠出金で11万3,776円を自己資金で出すと書かれていますが、これはどこから拠出しますか。
- 団 体：こういった形での活動については、会としては特にやっていませんでした。この事業がもし進む事になるようであれば、寄付も多分いただく事になると思います。自腹でいろいろ支出する事もあると思います。その辺でやりくりをしてまかなっていきたいと思っています。

(17)

- 事業名：「まつどの介護」プロモーション事業
- 団体名：特定非営利活動法人 SmileResource
- 担当課：介護保険課
- 委 員：動画について、ナレーションがさっぱり聞こえないという所をぜひ直していただきたいなと思いました。
- 会 長：貴重な感想でしたね。私からも質問があって、視聴回数伸ばすにはどうすれば良いと思いますか。団体の話もあると思いますが、介護保険課としてはどう考えますか。
- 担当課：11月11日の「介護の日」にちなみまして、広報まつど特集号を発行いたしました。そこで協働事業について内容を触れています。発行以降非常に再生回数が伸びていて、広報まつどの効果を感じています。
- 会 長：団体からは何か一言ありますか。
- 団 体：再生回数が伸び悩んでいましたので、ケアマネジャーの事業所にチラシでご

案内したり、学校の学生さんなどにも、チラシで案内をしているところです。これからまた考えてみたいと思います。

委員：動画を見て、どのようなフィードバックがありますか。

団体：Youtube のコメント欄を使ってないので、視聴者からは取ってないのですが、一緒に撮影をしている学生の子や、介護職を目指している方に関しては、福祉の事を全く知らないで作業に取り組んでいましたので、「あ、こういった世界なんだ」と気づきを受けている印象はあります。実際にヘルパーの資格を取ってみようかなと勉強に来た学生さんもいました。

委員：施設等からはどんな声が聞かれていますでしょうか。

担当課：私共では、新卒応援ハローワークなどとも連携を始めたところです。ハローワークの方々にこの協働事業の動画をお伝えして、介護現場で働くってどんな事かというのを動画につなげるということで、この協働事業の良さを引き出しています。

委員：介護の現場を映して、それを公開するという事ですが、個人情報への配慮はどうしていますか。また、若者の力をもっと活用したいということで、学生ボランティア等は期待できそうでしょうか。

団体：全ての方に許可を得てからやっております。ダメな方はモザイクを入れるとか、名前を消すなどして対応しています。学生については、先日も松戸向陽高校から協力したいということで話があり、また東京の大学からも社会活動として勉強させたいので紹介して欲しいとか、そういう声も出ています。

委員：今日指す動画が全部完成した場合、その先は何か展望はありますか。

団体：完成後について、引き続き必要なものは、法人で頑張っけて撮っていきたいと思っています。夢は教材で使ってもらえるとすごくありがたいと思っています。

(18)

事業名：日本語を母国語としない子どものための学習支援事業

団体名：認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会

担当課：文化観光国際課

委員：教育委員会や学校との連携はどうなっていますか。また、チラシの掲示場所として、松戸商工会議所や市民センターと書いてありますが、それ以外にもありますか。

担当課：文化観光国際課は市長部局ですので、教育委員会とはまた別の組織となっています。今回の提案事業は学校の授業時間外の子供達の活動の部分を支えたいというところになっています。今後この事業を2年3年と進めていく中で、教育委員会や個別の学校と連携をしながら事業を充実させていきたいと

考えています。

団 体：松戸市では教育委員会が日本語のための支援員を登録してしまして、そこから学校に派遣されています。教育委員会への働きかけに関しては、窓口で紹介パンフレットを置いて頂いて、入学の手続きに来られた方に配布しております。あと地域への働きかけに関しては、例えばこの講座を設けるにあたり、事前に関連する地域の町会や団体に事業の紹介を行い、協力を得ようと考えています。

委 員：事業概要の中で、子どもの学習支援と生活サポートということ強化するという風にかかれていますが、この生活サポートという部分について、どのようにお考えでしょうか。

団 体：今後の展望としまして、地域一体となって支えていく学習支援を考えています。ですから、単独に我々だけではなくて、地域の色々な人々・団体・学校・その他行政を含めて一体となってやっていきたい。そのためにこの先にはモデル事業を作りたいと考えています。

委 員：学習支援のところは良く分かりましたが、この生活サポートという面については他の団体、または他の課とも連携して作り上げていくという事で、今期の事業には入っていないという事でよろしいですか。

団 体：講座の中で、最後の方で地域と連携して考えていこうというような時間を設けておまして、その中で。

担当課：学習支援とともに生活サポートもしたいと思っています。生活サポートの部分については何をするかというよりも、誰がするかという仕組みを構築していきたいと考えています。外国人の子ども達が成長していく過程を、地域全体でサポートをしていきたいと考えております。その部分が今回新規事業として行う5回の講座の中で、地域の人々の目を養うというところになっています。

会 長：日本語指導や学習指導ノウハウ等、スタッフ養成する内容も含まれていますが、全5回、どこに重きを置いていますか。

団 体：最初の1、2回は共生の内容で、理解を深めてもらう。中ほどでスタッフとしてステップアップするためにノウハウを提供していきます。日本語を教える事について、基礎的な知識をここで提供していきたいなと思っています。

(19)

事業名：松戸のイメージ向上のためのコミュニケーション事業

団体名：まつどのこもりかた。編集部

担当課：広報広聴課 シティプロモーション担当室

委 員：見た方から感想とかフィードバックがあれば教えてください。

団 体：SNS のコメントを通して「こんなお店あったんですね、近くにあったのに気づかなかったです。」ですとか「これからも応援していきたいです。」「活動頑張ってください。」などのコメントを多くいただいています。

委 員：事業を進める中で、スタッフの方が一番困難だと思っている事はなんですか。また、この事業は収入につながるようなところがありますか。

団 体：取材にはかなり体力や時間を使うという事があります。現場に取材に行つて、話し合いを行つて、時間をかけて魅力が分かったところで、やっと取材交渉に入ります。また、出演者の募集にも苦労しています。今では聖徳大学と連携も行っていますが、色んな大学と連携を行いながら出演者を募集していけると、少し楽になるかなと考えています。ビジネス面においては、今フォロワー数が 1,000 件で、まだまだ弱い数字であると思っています。最終目標としては 3,000 件が 1 つの目標数値になるかなと思つていて、ある一定の価値が出てくると思っています。そうした時に、お店の広告等をウェブで発信する事や、お店を紹介に紹介料などをもらっていくと、将来的にはビジネスにつながっていくのかなど。現段階では、ファンを増やしていく活動を重視する必要があると思つています。

会 長：この事業の目的は、松戸に住んでみたい、行ってみたいという人達を増やしていく事だと理解します。その話につながるためにはフォロワー数という目線で見たとときに何人位が必要になると思いませんか。また、シティプロモーション担当室に質問ですが、この事業を行つて盗んだノウハウはありますか。役所として変わった部分を教えてください。

団 体：今の段階では指標を持っていませんが、松戸市に住んでいる層や、人口の事を考えてみると、今の全人口の 10 分の 1、ここがおそらく我々が発信している情報が刺さる数なのではないかと思つています。SNS マーケティング観点から見ましても本当であれば 1 万人以上の数字があったほうが、力としてのすごく強くなります。

担当課：ウェブサイトは大変おしゃれにできていて、写真の配列などが参考になります。こうしたものを間近で見せていただいて、その内容も聞いて、というところで、今年 9 月に発行した本市の PR 冊子の誌面を作る際に参考にして、写真の使い方や記事の作り方、誌面の構成などに大変活かされたものと考えています。

委 員：不動産屋への実績はどうでしたか。

団 体：不動産事業者とはぜひ一緒に組みたいと考えていますが、1 年目の活動の中で我々も余裕が無く、まずは大学との取組みから始めています。不動産事業者との連携に関しては、我々が松戸市の魅力を発信しているというところを認識いただいて、我々の記事が不動産会社のホームページ中にあつたり、資

料請求の際に我々のチラシが届いたり、そういったところができると魅力が伝わっていくのかなと思います。

(20)

事業名：町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業

団体名：できる街プロジェクト

担当課：市民自治課

委員：町内会に入ってもらえるようなストーリー作りについて、アイデアレベルでも結構なので教えてください。

団体：最初の4話は「じちまる」が引っ越してきて、町会って何をやっているのかわからないというところから、最終的には「じちまる」が町会に入るのが4話まで。5話6話から実際に一緒に町会の活動をしていくので、具体的な町会活動を紹介していきこうとストーリーを考えています。

委員：今日の午前中にプレゼンテーションを行った超普通スタジオは、できる街プロジェクトとは何か関係がありますか。また町会加入のメリットデメリットについてどうお考えか教えてください。

団体：できる街プロジェクトは、千葉県全体の市民活動、市ではなくて県全体の市民活動をしています。自分達がやりたい事の要素がどちらかという強い。我々は、町会自治会の想いのほうに力を入れています。今後の事業計画として、松戸市に住んでいる人が企画運営をして、松戸市の人だけでまわしていけるような、松戸クリエイター団体が出来上がるのを、ゴールとして見込んでいます。

担当課：イメージが先行して、町会費を取られたり、班長を押し付けられたり、そのような事をデメリットイメージとして、市民の方が持たれている現実があると思っています。それに対して、今回の動画を活用して、地域の防犯・防災や、インフラにまつわる事、また、地域の見守りであるとか、子育てを地域全体でやっていく、あるいはお祭り等のイベント企画を行う事で、地域を盛り上げていくというのが地域の皆でやるメリットだと考えています。

委員：加入率っていうのは上がっているか下がっているか、現状が分かれば教えてください。

担当課：市民自治課では町会・自治会に加入されている世帯の数に応じて交付金を毎年交付していきまして、それをもとに加入率を把握しています。直近3年では、平成30年度69.4% 令和元年度68.4% 令和2年度が67.85%という風になっておりますので、残念ながらジリジリ下がっているというところは否定できません。

委員：そういう意味では緊急的にやっていただきたいということで協働事業という

ことですよ。

担当課：はい

会 長：松戸市内で上手くいっているところの成功物語をコンテンツにしたり、あるいは逆に残念だけどこを上手く乗り越えれば良いよねってところがわかるようなコンテンツだと、ぐっと意味合いが深まると思っていますが、いかがでしょうか。

担当課：加入率については差がありますが、何が一番の理由かというのは把握が難しいところではありますので、今後分析は進めたいと思っています。また積極的な活動については市の広報も含めて発信していきたいと考えているところですので、貴重なご意見として参考にします。

(21)

事業名：松戸市民向けSDGs普及啓発促進事業

団体名：まつど地域活躍塾つながりの会

委 員：学習から実践、実践から行動変容までということで、プログラムが組まれていますけれども、現場体験はどのような現場を想定されているのか、教えてください。

団 体：イメージはまつど地域活躍塾の現地体験です。グループの活動現場に入って体験するのと、あとは基本的なSDGsの座学で学習する、それを合わせた形の実践を考えています。

委 員：SDGsは17の目標がありますが、今回はこの17のうち、どれをテーマにしますか。また、資料に記載のSDGsのランキングについて、前回の全国103位から59位に上がった原因が分かるなら教えてください。

団 体：SDGsの目標1から17について勉強するという事ではなく、実際に参加していただいたネットワーク・団体の活動について、SDGsのどの目標につながっているのか、ということを確認・共有していくという事をメインにしています。併せてSDGsのカードゲームというのを別のプログラムで持っていますので、そちらではSDGsの全体を社会・経済・環境のバランスをとって進めていくことが大事だという、全体を学習しながら進めていこうとしています。松戸市のSDGsのランキングについては、理由はわかりません。

委 員：松戸市民向けSDGs教材の開発・試行について、松戸市民向けというところで、特色があるのでしたら教えてください。また既存の13の市民団体や企業に加えて計20とありますが、あとの7団体はどういうところへの働きかけなのでしょうか。

団 体：教材の松戸らしさという事について、団体のメンバーでフリートークを実施

して、イメージの共有化を行いました。具体化についてはまだディスカッションが必要で、決まっておられません。今回参加の13団体については、市内の団体に声掛けを行いました。声掛けを拡大する事や、この13団体を經由して紹介してもらおうというようなやり方があるかなと思っております。

(22)

事業名：料理教室を通じた父親の意識改革事業

団体名：MAISON IZARRA Oyatsulabo * T naturel

担当課：男女共同参画課

委員：参加費を取られたらどうかと思いますが、それはいかがでしょうか。また、もし取るとすればいくらになるのか。最後に、今までの活動の中でリピートした親子はおられたのかどうか教えてください。

団体：参加費について、参加のハードルを低くするためと、多くの方に参加していただく事を優先していて、参加費はいただいています。将来団体独自で開催する際には、いただこうと思っています。もしいただくのであれば材料費として1人1,500円程度かかっていますので、その分を考えていこうかなと思っています。リピーターの件について、より多くの方に参加していただくという事で、原則リピーターは受けておりません。

委員：講座が終わった後の発展として、パパサークルはいくつ位できて、どのような活動をしていますか。

担当課：計2回実施し、今時点でパパサークルに加入されたという話はありません。これまで男女共同参画をテーマに、お父さんが参加していただくイベントを立ち上げても、応募が少なく、協働事業を行う事でこれまで来なかった方に来ていただけています。そういったところは1つの成果であると思っています。参加した方には、男女共同参画課が主催するパパ向けの講座等のご案内を行い、ご参加いただけるように進めていきたいと考えています。

会長：ワークショップは30分という時間ですが、時間は十分ですか。

担当課：お子様と参加していただいているため、お菓子づくりで使っている2時間半と30分、時間を伸ばしたら集中してできなくなる事を懸念しています。今回の事業は入口のようなところがあるので、まずは30分で試行錯誤し、時間配分等は検討していきたいと思っています。

委員：広報について、上手くいっている点と改善していかなければいけない点について教えてください。

担当課：男性が多い職場、消防・警察・自衛隊等にピンポイントで広報を出していません。また、広報まつど等で広報を行う事で、奥さんがその広報紙やチラシを見た事によって「あなた行ってきたらどう」と勧めがあつて来ましたという

方が多くいらっしゃいました。

(23)

事業名：地域まるごとで弧育てを予防する連携システム事業

団体名：まつどでつながるプロジェクト運営協議会

担当課：子ども政策課

会 長：地域円卓会議について、私の認識では立場の異なる人達が集まって、課題の共有化をした上で、次にそれに向けてどう取り組んで連携していくのか、というところに踏み込んで動かすのが地域円卓会議だと考えています。今回の提案はその一手手前の問題意識の共有というところで終わりますが、その次の段階はどこで行っていきますか。次に、市民サポーターについて、対象者は誰を想定していますか。また、市民サポーターとはどのような役割を持ち、どういう能力を発揮する人なのか。

団 体：行政・民間で課題の共有をする事が大前提です。それぞれの資源を活用するところから足りないと私達は考えていまして、共有をし、お互いの立場で何ができるだろうかという事を考えます。解決し得ない部分に関して、どんな支援が必要かということは、今後3年の協働事業としてやらせていただきたいと考えていますが、できるだけ早い段階でその方向に行けるように進めていきたいと思っています。2つ目のサポーターについて、主な対象者としては、シニア世代・多世代です。その方達にどういった役割を持っていただくかについて、まずは子育ての現状や、それに対して行政・民間問わずどういった制度を持っているかという事を理解していただきます。足りないと感じているのは「目」であって、私達は困難な家庭を早期に発見・予防していくというところを重要視していますので、サポーターを増やして、まず見守っていただいて、といったところをやっていきたくて考えています。

委 員：日々の活動の中では、急を要して支援が必要な案件あるかと思います。その対象者をどこの部門で把握してつなげるようにするのかを教えてください。

団 体：緊急の場合には行政と連携していますので、円卓会議をしつつも、緊急の時にはそれぞれの関係機関に私達でつないでいく、また関係機関から私達ができる部分につないでいただくというような形になっていくかと思います。

委 員：外部講師はどのような方を想定しているのでしょうか。

団 体：都内で実際に活動を始めている特定非営利活動法人のデイチームという団体がありまして、年齢問わず支援に入れるような研修等を行っていますので、そちらから講師の方をお呼びする予定です。またNPO法人ピースーズという団体が、市民力をつけるということで市民育成をしていますので、そちらも検討しております。

会 長：地域円卓会議と市民サポーター養成講座がきちんとまわっていくには、担当課の子ども政策課の力が大変重要な要点だと思います。そこら辺の想いを一言いただければ大変嬉しいのですが。

担当課：昨年度からこの地域円卓会議には子ども部の各所属、それから教育委員会の担当部署ですとか、そういった部門から定期的に参加できるような体制はできつつあります。今後は一緒にやらせていただく子ども政策課として、しっかり庁内をとりまとめていきたいと思っております。

(24)

事業名：松戸市民も命を大切にしてみます事業

団体名：松戸地域猫スタートサポート

委 員：最近の状況としましては、だいぶ良くなって来たというような感触を得ているのでしょうか。

団 体：松戸市全体でもまだそこまで地域猫活動というものが認知されていません。また、猫が嫌いな方ですと、全然タッチしてくださらない状況です。ですから、猫が嫌いな方も理解してこの活動を賛同していただけるように、まだまだ周知が必要な段階だと思っています。

委 員：具体的な成果指標、数値で見えるものがあれば教えてください。

団 体：相談会を月1回実施していて、野良猫の糞尿の問題ですとか、手術をして増やさないようにしたいといった相談があります。相談内容に90%程は対応できて解決をしていると思います。

委 員：自分達の活動として問題を探していくという感じではなくて、来られた方に対して対応するという事ですね。

団 体：そうです。地域の問題として捉えていますので、地域の方が動いてもらわない事にはこの問題はどうしようもないです。個人的に気が付いた猫は、自分達で対応しています。

会 長：どこがステップアップだったのかというのを教えてもらいたいのと、助成が終わった後の展望ですが、地域猫活動実践者について何人増やす目標でしょうか。

団 体：町会レベルに持っていきたいというのが目標です。今回1町会しか出せませんでしたがお話を含めると徐々に増えてきているので、夢ではないと思います。ステップアップについては、リターンが基本ですけれども、プラスステップアップとして色々な猫活動を他にされている方などを通して、譲渡ができたという方向で進めていきたいと考えています。

会 長：出口の選択肢をもう1個増やすという事ですね。リターンと併せて譲渡という選択肢もきちんと作ってまわしていきたいという事ですか。

団 体：そうです。もとに戻すと糞尿の問題等でトラブルになってしまいますので、なるべく譲渡等で離すのをやめましょうという方向になってきているという事です。

(25)

事業名：発達障害・不登校等の親の会事業

団体名：あんだんて

委 員：おしゃべり会においては、スタッフがすごく重要じゃないかと思いますが、その辺の役割というのはどのように捉えていますか。それから、おしゃべり会が終わった後のフォローについて教えてください。

団 体：スタッフについて、毎回参加しているのは私だけで、負担が大きい部分があります。発足が長くなり、中高生のお母さんが増えてきました。幼稚園とか小学生のお母さんの悩みを「わかるわかる」と聞いてくれる方がとても増えているので、そういう方の育成について、力を入れていきたいです。フォローについて、個別にフォローするというのは、自助会ですのでやっていません。匿名性を保持して、ブログ等にその内容を書いていて、同じ悩みを持っている方が来てもらえるようにしています。

委 員：おしゃべり会以降、少し突っ込んで悩みを聞くとか、そういった場はあるのですか。

団 体：その場で出会って、意気投合して、別でお茶会をしている人はいます。

委 員：個人的に悩み相談みたいな事はありますか。

団 体：あります。おしゃべり会で悩みを聞いた後にやり取りを行うことがあります。

委 員：その後の交流はありますか。

団 体：あります。

会 長：平均してどのくらいの回数関わって、収束させていく感じですか。

団 体：毎月必ず来る方は数名です。LINE グループを作っていますが、5年位在籍していたりします。今は落ち着いていても、5年生になったら5年生なりの悩みが出て来るだろうとか、とりあえず在籍はしていて、期間をあけて連絡が来たりする事は結構あります。

会 長：例えが変かもしれませんが、親の介護みたいに終着点があるわけではないのですね。

団 体：そうです。中学生位になると、もう必要なくなりましたと報告してくれる方もいるし、何となくいなくなっちゃう方もいます。就労というところでつながってくる課題もあると思うので、続けていけたらと思っています。

会 長：父親の存在があまり感じられませんが、実際はどうですか。

団 体：最近はすごく増えています。ご主人のほうで根詰めている方もたまにいらっしゃいます。年2回の遠足の部分はあるべくパパを連れて来てと、お母さん方をお願いしています。他のパパと触れ合うとか、コミュニケーションを見てもらうとか、そういった感じでパパも連れ出してもらっています。

5 閉会